

平成17年度前期発表会報告

平成17年5月28日(土)午後2時千葉大学総合校舎H棟1F、H-12教室で平成17年度前期発表会が行われました。発表会のプログラムを以下に掲載します。

<プログラム>

開会・会長挨拶

座長 田原 亮二 (東京学芸大学連合大学院)

1) 上腕二頭筋伸張性筋出力SRTによる血中CPKおよびミオグロビン濃度の変動に及ぼす

大豆ペプチド摂取の影響

○村松成司 (千葉大学教育学部)、小泉佳右 (植草学園短期大学)

佐藤大毅、竹永和久 (千葉大学教育学部)

座長 小泉 佳右 (東京学芸大学連合大学院)

2) 6週間のEMS装着による形態およびパワーの変化

○河野信也、今泉茜 (千葉大学教育学部)、田原亮二 (東京学芸大学)、村松成司 (千葉大学教育学部)

閉会・副会長挨拶・事務局連絡

平成17年度後期発表会報告

平成17年12月3日(土)午後1時千葉大学総合校舎H棟1F、H-12教室で平成17年度後期発表会が行われました。発表会のプログラムを以下に掲載します。

<プログラム>

開会・会長挨拶

座長 田原 亮二 (東京学芸大学連合大学院)

1) 大学生のセルフエスティームと社会的スキルからみた攻撃受動性に関する研究

○服部洋兒 (愛知工業大学基礎教育センター)、服部祐兒 (東海学園大学経営学部)、

村松成司 (千葉大学教育学部)、村松常司 (愛知教育大学)

2) アルカリイオン水長期摂取が日常生活におけるコンディションに及ぼす影響

○伊藤幹、大隈早香、村松成司 (千葉大学教育学部)、

服部洋兒 (愛知工業大学)、服部祐兒 (東海学園大学)

座長 西野 明 (千葉大学)

3) シニアサッカー選手の最大酸素摂取量について

○秋田信也 (東邦大学)、湯田秀行、中沢克江 (東邦大学) 菊池武道 (千葉大学)

4) 疾走能力を高めるための股関節ドリルの導入と評価法について

千葉県体育学会平成17年度後期発表会抄録

演題1 大学生のセルフエスティームと社会的スキルからみた攻撃受動性に関する研究

○服部洋兒(愛知工業大学基礎教育センター)、服部祐兒(東海学園大学経営学部)、
村松成司(千葉大学教育学部)、村松常司(愛知教育大学)

【目的】大学生を対象にイジメ等の攻撃行動を他者から受けやすい者の行動的特徴について攻撃受動性尺度を使って調査し、セルフエスティームおよび社会的スキルとの関わりを追究することにより、イジメ問題等を予防するための糸口を見出すことを目的とした。

【方法】7大学の学生672名(男子349名,女子323名)に無記名自己記入法により調査をおこなった。調査項目は1イジメを受けた経験の有無2セルフエスティーム3社会的スキル4攻撃受動性である。分析は χ^2 検定、t検定、分散分析を使用した。

【結果】イジメを受けた経験のある学生は、男子219名(62.8%)、女子208名(64.4%)あった。セルフエスティームといじめの関連では男子では「イジメ経験あり25.8点(5.4)、イジメ経験なし26.9点(4.8)」であり、「イジメ経験なし」の方が有意に高かった($p<0.05$)。女子では「イジメ経験あり25.1点(5.3)、イジメ経験なし25.4点(5.5)」であった。社会的スキル得点といじめでの関連では有意な差はみられなかった。いじめと攻撃受動性との関連では男子では「イジメ経験あり37.9点(10.0)、イジメ経験なし32.2点(9.0)」であり、女子「イジメ経験あり38.7点(9.2)、イジメ経験なし34.2点(9.1)」であり、男子・女子とも「イジメ経験あり」の方が有意に高かった($p<0.01$)。セルフエスティームと社会的スキルとの間には男子、女子とも有意な差がみられ、いずれもセルフエスティーム高群の社会的スキル得点が高かった。セルフエスティームと攻撃受動性との間には男子、女子とも有意な差がみられ、いずれもセルフエスティーム高群の攻撃受動性得点が低かった。社会的スキルと攻撃受動性との間には男子、全体では有意な差がみられ、いずれも社会的スキル高群の攻撃受動性得点が低かった。

【まとめ】イジメを受けた経験のある学生のセルフエスティーム得点が低く、攻撃受動性得点が高いこと、セルフエスティーム得点、及び社会的スキル得点が低いほど攻撃受動性得点が高く、いじめられやすいことが示された。また、セルフエスティームと社会的スキルは関連が見られ、大学生の攻撃受動性の低減を図るために、セルフエスティーム、社会的スキル向上をはかることが急務であることが示された。